資料

一人ひとりが輝く集団づくり

人間は社会で生きていくために，何らかの集団の一員になっている。自分の意志で所属することもあれば，学級のように，決められた集団に所属することもある。

どんな集団でも，目標を達成したり，そこでの生活を向上させたりしていくためには，構成する一人ひとりが協力し合い，役割と責任を果たすことが必要となる。

集団の中でも互いに尊重し合い，その目標を着実に実現し，他の集団からも尊敬される，そんな集団をつくっていくためには，どうしていけばよいのだろうか。

例えば，オーケストラには，弦楽器，管楽器や打楽器の独特の音色や旋律の重なり，ピアニッシモからフォルテッシモまでの音量のダイナミックな変化など，合奏ならではの魅力がある。

しかし，オーケストラで美しい曲を奏でるためには，音量のバランス，テンポ，タイミング・・・，どれか一つ，誰か一人が，少しでもずれると調和がとれない。

各楽器を担当する一人ひとり，そして指揮者も，各自が担う役割をしっかりと果たすことで，聴く人の心に響く音楽が生まれる。

私たちが所属する様々な集団においても，その目的と意義を理解し，自分の役割を自覚して責任を果たしているか，自分自身を振り返ってみたい。

集団や社会に所属することは，様々な「　①　」を果たす中で，自分の「　②　」を伸ばし，「　③　」や「　④　」を重ねて自分を「　⑤　」させることのできる，格好の機会である。

わたしたちの道徳P166~P168より

この人のひと言　～saying～

自己形成がある程度まで進んだら，

比較的大きな集団に加わり，

他人のために生き，

我が身のことを忘れるほど，

これが自分の義務だと感じた活動に身をていするのが望ましい。

人間はそうやって初めて自分自身を知ることができる。

ゲーテ（1749～1832）：ドイツの詩人，劇作家，小説家

人間の器は，その人間が進んで引き受ける責任の重さによって

測ることができる。

エマーソン(1803～1882)：米国の思想家，詩人

人間は，自分の置かれた，その中で

最前を尽くすしかないでしょう。

小津安二郎(1903～1963)：映画監督

３つの言葉から，あなたが一番印象に残った言葉を選び，その理由も書いてみましょう。